長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１０３

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年６月２９日(木)

居場所としての学級

学級は子供達にとって掛け替えのない場所です。そこは、安心、共感、協働、共同、支持的風土等々、人が安心して過ごすことができる要素が空気の中に漂っていることが重要です。居場所となっていない学級の雰囲気は、その全く逆を考えて頂くと分かりやすいですね。

私は毎日、その様な視点で学校内を巡視しますが、学級それぞれに色々なカラーがあり、先生方も相当な力を注いでいるのが分かります。「よくがんばってんなぁ。」と思いながら校内巡視しています。

さて、このお便りのタイトル「みんなの居場所」に、私がどのような気持ちを込めているか、もうお解かりの人もいらっしゃると思います。子供達にとって、教師にとって、保護者にとって、長洲小に関わる全ての人にとって居場所であってほしいという意味で名付けています。私はこの視点を忘れずに業務に当たっています。

少しボヤいてもいいですか？　それでも、うまくいかないことの方が多いですね。誰かが言っていましたが、世の中は思い通りにならないことの方が多いようです。良かれと思ってやることが裏目に出たり、指導したにも拘らず予期せぬことが起こったり…。教頭になった頃、そんなことがとても多く、震災も重なって心が折れそうになったことを思い出します。教頭職に慣れてきた頃、私は最悪を想定して仕事をするようにしました。多くの事態をすべて想定内として捉えなおし、それが起こった時の対応と、起こらないようにするための事前対策を考えて仕事をしたのです。そうすると、自然と私自身の居場所はここだという風に考えられるようになりました。居場所づくりは自身の考え方と、仲間との協働が大切だと感じています。

有言実行　～児童総会にて～

先日、児童総会が実施されました。６年生が中心となって考えたスローガン「一人一人が常に自分から誰かのために動ける長洲小学校」が示され、それを基に各学級で、自分たちの学級では何を中心に頑張っていくかが話し合われました。主体者意識を持ち、真剣に話し合いがもたれたようで、１年生から６年生まですべての学級で、目標やスローガンが発表されました。

自分達で話し合い、児童総会で宣言した目標です。そこには責任も伴います。各学級の目標やスローガンが「絵に描いた餅」にならないようにしなければなりません。生活の中で常に意識して、実際の行動に現れるようにしていきたいものです。

かく言う私自身も、常に誰かのために行動できているかは分かりません。これからその点について意識していきたいと思います。

シリーズ「自分を語る」#１０３

いよいよ国際課、最後の日です。次の担当者への引継ぎがぎりぎりまで続き、３月末まで出勤していました。残務処理が一段落して、課長に挨拶、国際課職員一人一人に挨拶をして、最終日の勤務が終了しました。淋しさが勝っていましたが、久しぶりの学校ですので、それに対する嬉しさもありました。しかしいよいよ最後の時、課員が見送ってくれます。中国の国際支援員は涙を流して見送ってくれて、思わず貰い泣きする場面もありました。国際課勤務で知り合った県庁マンや、多くの関係機関とその職員との繋がりは、私の貴重な財産であり、今後もその繋がりを大切に生きていくことでしょう。

さて、４月１日、辞令交付式。その現場で校長先生に挨拶をして、伊倉小学校へ行き、打ち合わせ。当時の教頭先生に挨拶し、また打ち合わせ。当時の伊倉小学校はとても元気で、賑やかな学校でした。何に対してもやる気満々の子供達でしたが、やる気をうまく制御できていない状況があり、それを良い方向へと導くことが私に託された仕事でした。で、先ずは情報収集となっていく訳です。学校長との面談の日、すぐに伝えられていた仕事は「６年担任」と「体育主任」でした。更に、併せて指示を受けたのは「新６年生に気持ちよく卒業式を迎えさせてくれ！」ということでした。そこから当該学級の情報収集を行う訳ですが、あまり良い情報は聞かれませんでしたので、先入観を一旦リセットして子供達との出会いに備え、家庭訪問を行うことにしました。家庭訪問と言っても限られた家庭だけです。新６年生の兄弟で、以前担任させて頂いたことのある児童の家庭に限るのです。お陰様で多くの情報が手に入りました。

出会いの日です。始業式で担任発表があった後、教室へ。子供に迎合してはいけません。是々非々と不易を通すことから始めることが重要であり、ここ数日考えていたことを、ストレートに子供達にぶつけました。言葉も心の叫びそのものを使いました。

「こんちは。名前はもう知っとっど？　澤田。お前達、去年、相当悪さしたっだろ？　ヤンチャすっともよかばってん、人の道から外るんなよ。もし、そぎゃんこつがあれば、俺がヤンチャすっけん、そんぐらいの覚悟でヤンチャせぇ。何か聞きたいことはあっか？」

「シーン…」

このクラスに関わった職員は、妙なことを口にしていました。「このクラスの子たちは、机が並べられません。」「授業中は、私語と立ち歩きが日常的にあります。」「授業がチャイムと同時に始まることはありません。」６年生という発達段階では、私の経験的に、まずあり得ないことでしたね。教室の床に机を並べるための印が書かれていて、「オイオイ…」って感じでした。そんな職員に宣言しました。「１週間、私だけに時間をください。自治の下地を作りますので。」当時の職員は「本当にできるの～？」と懐疑的でした。そんな姿を見ると余計に「やってやる！」と闘志が沸く澤田でした。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）